

あいち外国人の日本語教育推進会議「こども部会」のテーマについて

平成27年9月9日（水）に開催予定の標記会議において、下記の3項目をテーマにしたいと考えています。内容をご一読いただき、是非とも活発な意見交換をお願いいたします。（テーマにそれぞれ記載している内容は、進行役である愛知産業大学短期大学の川崎准教授との意見交換の内容です。）

1 小中学校における初期指導について

- ・ 海外から来てすぐの子どもや、経済的な理由によりブラジル人学校から公立学校に来た子どもが、日本語の初期指導なく授業を受ける場合、内容が全く理解できず置き去りになっている。子どもにもいろいろあって、小学1年生くらいだと、母語も日本語も読めない子もいて何ともならない場合がある。
- ・ 必ずしも語学が堪能ではない加配教員も困っているようだ。また、外国人の子どもの散住地域では特に困っており、語学相談員の派遣があっても1月に1回程度では追い付かない。
- ・ こういった状況を打破するため、日本語のわからない子どもに簡単な語りかけ（指示）ができるような素材（テンプレートみたいなもの）があると、語学相談員が来られない間のつなぎができる。どこかで作っているのかもしれないが、探し出せない。県などで作ってくれとありがたい。（例：トイレはここです。○時間目は○階です。本を読んでください。）
- ・ もっとよいのは、県などで初期指導のできるスタッフ（日本語のスタッフと外国語のスタッフ）でチームをつくり、必要なタイミングで2～3時間の指導を週に2回程度、1か月間くらい集中的に派遣してもらうようなことができるかと非常に助かる。

【初期指導とは】

海外から来日して間もないなど、日本語がほとんどわからない外国人児童生徒に対し、生活に必要な日本語を教えたり、小・中学校での生活にスムーズに適応ができるよう指導を行ったりすること。

日本語教育適応学級担当教員や語学相談員が、在籍学級とは異なる教室で指導を行う。

2 就職支援について

- ・ こういった会議に企業関係者がせっかく来てくださるので、就職指導を入れたらどうか。進学に係る進路指導に係る取組（進路説明会、シンポジウム）は最近よく聞くが、就職に関してはあまり聞かない。就職に関する外国人の子どもの成功例があれば、外国人にうまく伝えたい。

- ・ 就職試験に関しては、実際に派遣会社を通じて就職試験を受けた子どもの中には、適性検査として知能テストのような形式の試験が課されたケースもあるようだ。日系の子は中卒で働きに出る子もいるが、こういった試験への対応は学校ではなされていないと思われる。
- ・ 要は、特に外国人人材の場合、企業としてどういった能力を求めているのかを知ることができれば、指導の仕方もわかってくる。知能テストで試されるようなこともあれば、日本語能力がどの程度、といったこともあろう。そのあたりを企業関係者の方にお伺いしたいと考えている。

3 小学校への早期適応（プレスクール）について

- ・ プレスクールに取り組んでいると、外国人の子どもに対する乳幼児教育（しつけなど）がうまくなされていないと思うことが多い。「何故こんなこともされていないのか」と思うことに会う。雨が降ると学校に行かなくてもよいと思っている人もいる。
- ・ プレスクールについては全国的にも浸透しつつあると思うが、外国にルーツを持つ乳幼児教育についてはまだ目が向けられていないと思う。
- ・ 何かにつけて保護者は無関心。子どもの教育、学校行事（学校参観、運動会）に出てこない。こういった意識が影響していると思う。
- ・ 子どもの時に日本に来て、親の頻繁な転職や母国との行き来で学習についていけず、小学校も出ていない子どもが親になる年代となってきた。こういった親はダブルリミテッド（母語も日本語も読み書きが不自由）であることが多く、子どもに言葉を教えることもままならない。いろいろ翻訳文書を作っているが、それすら理解できない。生活力はあるが自分の日本語力が十分でないということに自覚がなく、特に日本語の「読み書き」の力がついていない。どうしてよいものか。

【プレスクールとは】

日本の小学校へ早期に適応できるようにするため、小学校入学前の外国人の子どもを対象に、初期の日本語指導や学校生活指導を行うこと。

平成 21 年度に県がマニュアルを作成し、現在、県内 15 市町が独自にプレスクールを実施中。

4 その他

話題提供として、平成 27 年 7 月 29 日に中日新聞に掲載された特集記事を併せて送付します。

以上